～ 春の農具が大集合！～

はる　のうぐ

私たちの暮らしに欠かせないお米。春の田植えから秋の収穫まで、お米作りにはさまざまな工程があり、たくさんの農具が使用されます。現在は機械化された作業も、昔は手作業によるものでした。農具は、使う人や使われる地域によって違いがみられ、人々の知恵と工夫がつまっています。

本テーマ展では、主に近世後期から昭和 30 年代までの「ちょっとむかしの農具」をご紹介します。

田うえ　藤村和夫氏撮影　昭和 30 年ごろ

「ケンザオ」と「田植縄」

大岡利右衛門肖像画（個人蔵）

天保３年（1832）、比留田村に生まれる。近代農業の指導者。苗を規則正しく植える「正条植え」を広め、日当たりや風通しがよく育った稲は、収穫量が多いことを唱えた。地元の村のみでなく、各地へ出向く努力を惜しまず、生涯を米作りに尽くした人物である。

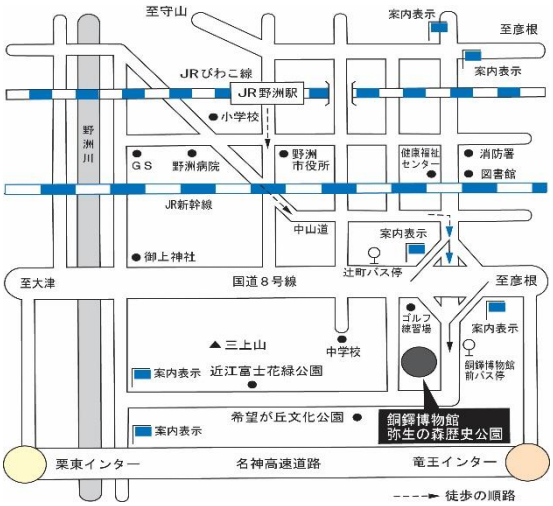
【交　通　アクセス】

1、JR野洲駅南口からバスを利用する場合

①近江鉄道バス「希望丘西がゲート（花緑公園）」方面行き、**「銅鐸博物館前」**下車すぐ　　②または「村田製作所」、「三井アウトレットパーク」方面行き、**「辻町」**下車徒歩５分

2、車を利用する場合

名神高速道路**「竜王Ｉ．Ｃ」**または**「栗東Ｉ．Ｃ」**から国道８号線経由約１５分

駐 車 場

普通自動車５０台　大型バス５台　※駐車無料